

旧淀川右岸地域からみた大阪の変遷

Transition of Osaka in the right bank area of the old Yodo River

西本 貴洋^{1*}, 吉川 眞², 田中 一成²

Takahiro Nishimoto^{1*}, Shin Yoshikawa², Kazunari Tanaka²

¹ 大阪工業大学大学院, ² 大阪工業大学工学部

¹Graduate School of Engineering, Osaka Institute of Technology, ²Faculty of Engineering, Osaka Institute of Technology

現代の日本は戦後の大規模な復興開発に始まり、高度経済成長期を経て急速に都市域を拡大することで量的な充実が図られてきた。そのため、日本の各大都市では都市開発にともない特有の文化や歴史的景観の多くを失う結果を招いてきた。しかし、大都市の量的な発達が進んだ近年では、都市環境の充実や活性化を目的として観光政策や歴史教育など都市の歴史に着目した活動が各地で展開されている。このように、現代の日本では歴史に対する関心が高まりつつある。一方、情報化社会として成熟期にある近年では空間情報技術が急速に普及し、GISの利用がより身近になっている。とくに、変遷分析のような長期的かつ膨大な情報の処理を可能とすることから歴史研究におけるGISの活用は有効的である。

本研究では急速に都市域を拡大してきた明治期以降の大阪を対象としている。大阪は江戸期より水辺を活用し水都として栄えたが、今では関西圏の公共交通機関や高層ビルが密集する経済都市へと変化している。また、江戸や京とともに三都と称されていたにも関わらず、都市の変遷に関連する研究は十分に行われていない。そこで、本研究では収集した歴史資料をもとにGISを活用し、明治期以降の都市レベルの変化を大阪繁栄の礎として現存する旧淀川を中心に都市の変遷を明らかにすることを目的としている。これによって、変遷のなかで消失した旧淀川周辺の特徴的な都市空間の存在を再認識し、大阪の魅力となる歴史的価値として創出することを目指している。具体的には過去の地理情報を収集するため複製地形図や旧版地形図をGIS上の現代空間に定位し、地形図データベースを構築する。このデータベースから市街地データを構築し、筆者が所属する研究室にて構築された堀川のデータと合わせて、市街地の拡大過程と既成市街地の変化について2次元的な整理・把握を行う。くわえて、大阪の変遷における大きな変化を把握した後、代表的な建造物の3次元モデルを配置した都市変遷シミュレーションを行い、都市レベルでみた歴史的変遷のヴィジュアルな表現へ展開することを目指している。

都市変遷の研究ではその長期にわたる変化を効率よく整理することが必要となる。そのため、本研究では市街地の拡大変化がはじまる明治中期から約20年ごとに6期の地形図を用いることにした。この地形図から旧淀川周辺にある市街地を抽出することで市街地の拡大過程を表現している。その結果、旧淀川右岸地域では明治7年に開設した大阪駅の周辺や旧淀川の近辺で市街化が進み、昭和前期には開発が収束していることを把握できた。さらに、市街地が拡大する一方で堀川の変化をみると、北部に位置する中津川の改修にともない新淀川が開削され、大阪駅の南では堀川が形成されていることが確認できた。

それと同時に、長期的な都市開発には市街地が拡大する一方で、既成市街地における建造物の建て替えが同時に繰り返されている。そこで、既成市街地の変化を捉えるため、地形図から判読できる主要建造物を抽出し、土地利用状況の把握を試みた。抽出した主要建造物はGISでデータベース化し、文献調査により存在期間や跡地の活用状況を属性情報として付与している。その結果、地図の判読が可能であった大正期において約40件の建造物を抽出でき、その多くは歴史的建造物や工場であることを確認した。くわえて、抽出した建造物の跡地では現在、公園や住宅として利用されている結果も得られた。さらに、市街化が始まる時期と既成市街地内の土地利用が変化しはじめたと考えられる時期を特定するため、建造物の存在期間を研究室で構築された変遷年表を参考に構築した。結果として、建造物が増加をはじめた時期は明治後期に偏っており、土地利用の変化は昭和初期より起きているということを構築した変遷年表からあきらかにした。これらの結果から、市街地の拡大とともに既成市街地の変化の一部を把握することができたと考えられる。

また、既成市街地における土地利用の変化が都市景観の変化に関係することを確認するため、当時の都市景観がわかる古写真と現在の景観の比較により景観検証を試みている。

本研究の現時点での成果として、明治期以降の大阪において都市形成過程と既成市街地における土地利用変化を把握し、旧淀川右岸地域における景観変化の一部を明らかにした。今後は大阪の景観や交通の要である橋梁を考慮した市街地の把握や旧淀川の両岸における地域ごとの変化を捉え、GISとCAD/CGを統合的に活用した3次元都市モデルにより変遷シミュレーションへ展開する必要がある。

キーワード: 都市変遷, 旧淀川, 市街化

Keywords: urban transition, the old Yodo River, urbanization